

為替週間展望 = ドル円は上値の重い展開か

[4月17日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		4月10日～4月14日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	132.14	134.05(12)	131.83(10)	132.51	+0.35
ユーロ・ドル	1.0902	1.1076(14)	1.0831(10)	1.1067	+0.0162

国内株・金利 / 米国株・金利		終値		前週末比	
	終値	前週末比	終値	前週末比	
日経平均株価	28,493.47	+975.16	日本10年債利回り	0.474	+0.004
ダウ平均株価	34,029.69	+544.40	米10年債利回り	3.445	+0.054

<来週の主要経済統計等>

- 17日 カナダ2月卸売売上高
米4月NY連銀製造業景気指数
米2月対米証券投資
- 18日 中国第1四半期GDP
中国3月鉱工業生産指数、中国3月小売売上高
英3月雇用統計
独4月ZEW景況感指数
ユーロ圏2月貿易収支
米3月住宅着工・許可件数
カナダ3月消費者物価指数
- 19日 日本2月鉱工業生産指数確報値
英3月消費者物価指数、英3月生産者物価指数、英3月小売物価指数
ユーロ圏2月経常収支
ユーロ圏3月消費者物価指数確報値
カナダ3月鉱工業製品価格
- 20日 NZ第1四半期消費者物価指数
日本3月貿易収支
独3月生産者物価指数
中国最優遇貸出金利（ローンプライムレート 1年、5年）
米新規失業保険申請件数、米4月フィラデルフィア連銀景況指数
米3月中古住宅販売件数、米3月景気先行指数
- 21日 日本3月消費者物価指数
英3月小売売上高
独4月製造業PMI速報値、独4月非製造業PMI速報値
ユーロ圏4月製造業PMI速報値、ユーロ圏4月非製造業PMI速報値
英4月製造業PMI速報値、英4月非製造業PMI速報値
カナダ2月小売売上高
米4月製造業PMI速報値、米4月サービス業PMI速報値

【前回のレビュー】米経済指標の悪化が続き、米長期金利が低下して、ドルは売りに押されやすい展開となっている。米連邦準備制度理事会（FRB）による昨年からの利上げ継続によって、今後はインフレ率の伸びが鈍化するとともに景気減速の動きが広がり、ドル円は上値の重い動きが続くとした。

【米消費者物価指数を受けてドル売りの動き】

日銀の植田新総裁は10日夜の就任会見で、大規模緩和の継続を表明した。「長短金利操作（イールドカーブ・コントロール＝YCC）は市場機能に配慮しつつ、現状では

経済にとってもっとも適切と考えられる「マイナス金利政策は現在の強力な金融緩和のベースになっている政策」と述べた。

また、今後の大規模緩和策については「どういふ風に歩むべきかという観点から、点検や検証があってもいいのではないかと今後の見直しに関して含みを残した。植田新総裁の発言の多くが慎重姿勢を示したもので、無難に乗り切ったという印象が残った。

12日発表の3月の米消費者物価指数は、総合は前月比+0.1%（予想+0.3%、前回+0.4%）、前年比は+5.0%（予想+5.2%、前回+6.0%）となり、事前予想や前回を下回った。これを受けてドル売りの動きとなり、133円台後半から132円台後半まで急落した。

13日発表の米生産者物価指数は、前月比-0.5%（予想は変わらず、前回-0.1%）、前年比+2.7%（予想+3.1%、前回+4.6%）、コアは前月比-0.1%（予想+0.3%、前回変わらず）、前年比は+3.4%（予想+4.1%、前回++4.4%）となった。いずれも事前予想や前回を下回った。この動きを受けてドル売りに傾き、ドル円は133円台前半から132円近辺まで値を崩した。

CME FEDウォッチによると、5月の米連邦公開市場委員会（FOMC）では政策金利据え置き確率が33%前後、0.25%の利上げ確率が67%前後となっている。7日の3月米雇用統計が堅調だったことや12日の3月米消費者物価指数でコア前年比が予想通りながら前回を上回ったことなどから、利上げ確率は高い水準を維持している。なお、5月は利上げを見送り、6月に0.25%の利上げに動くみり向きもある。

今後は5月か6月のFOMCで利上げを休止して、年後半に利下げに動くとの見方が市場では広がっている。利上げの終着点が見えてきたことで、米10年債利回りも3.3~3.4%台で頭打ちとなっており、ドルも上値を抑えられやすくなっている。

米国でのインフレ率の低下で、ドルは軟調な流れに傾いている。ドル円は今後の米経済指標などに左右されやすい流れが見込まれるが、利上げの終着点が見えてきたこともあり、上値の重い展開が続くとみられる。ドル円の目先の予想レンジは、129.00~135.00円。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、17日に米4月NY連銀製造業景気指数、米2月対米証券投資、18日に米3月住宅着工・許可件数、19日に日本2月鉱工業生産指数確報値、20日に日本3月貿易収支、米新規失業保険申請件数、米4月フィラデルフィア連銀景況指数、米3月中古住宅販売件数、米3月景気先行指数、21日に日本3月消費者物価指数、米4月製造業PMI速報値、米4月サービス業PMI速報値などがある。

【ユーロドルは一段高か】

ユーロドルは上昇基調で推移している。11日はイースター休暇明けのドイツの長期金利の上昇などから1.09台に乗せた。12日の米消費者物価指数が予想から下振れしたことで、ドル売りの動きとなり、ユーロドルは1.1000近辺まで上昇した。13日の米生産者物価指数も予想や前回から下振れしており、ドル売りの動きとなって、1.10台後半まで上昇を見せた。

ユーロドルはユーロ圏内の経済指標や株価の動向によっては一段と上値を追う展開が見込まれる。21日に発表されるドイツやユーロ圏の4月の製造業や非製造業PMI速報値が注目される。このところのドルの弱さもあって、ユーロドルは堅調な動きを見せて、一段高となりそうだ。ユーロドルの目先の予想レンジは、1.0850~1.1200ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、17日にカナダ2月卸売売上高、18日に中国第1四半期GDP、中国3月鉱工業生産指数、中国3月小売売上高、英3月雇用統計、独4月ZEW景況感指数、ユーロ圏2月貿易収支、カナダ3月消費者物価指数、19日に英3月消費者物価指数、英3月生産者物価指数、ユーロ圏2月経常収支、ユーロ

圏3月消費者物価指数確報値、20日にNZ第1四半期消費者物価指数、独3月生産者物価指数、中国最優遇貸出金利（ローンプライムレート 1年、5年）、21日に英3月小売売上高、独4月製造業PMI速報値、独4月非製造業PMI速報値、ユーロ圏4月製造業PMI速報値、ユーロ圏4月非製造業PMI速報値、英4月製造業PMI速報値、英4月非製造業PMI速報値、カナダ2月小売売上高などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。